

福祉サービス第三者評価結果報告書（2019 年度）

2020 年 3 月 19 日

社会福祉法人京都市社会福祉協議会  
京都市西京児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F  
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団  
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)  
電話番号 03-3486-5141  
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
	②	中村かおり	児童健全育成推進財団 第三者評価室所属評価者
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	京都市西京児童館		
施設連絡先	所在地	〒615-8223 京都市西京区上桂前田町 29-2	
	電話番号	075-392-4706	
施設代表者氏名	館長 青木 明美		
契約日	2019 年 6 月 14 日		
自己評価票回答期間	2019 年 11 月 7 日～2019 年 12 月 5 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	2019 年 11 月 28 日～2019 年 12 月 12 日		職員回答項目
訪問調査日	2020 年 1 月 30 日		

## 京都市西京児童館評価結果

## I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1 事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している		
1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している		○
2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている		○
2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している		○
【講評】		
法人として基本理念と児童館の重点目標を掲げ、その実現に向けた取り組みを行っています		
① 法人の基本理念は「京都市における社協行動指針 2015」に明記しています。指針には児童館事業の「重点取組」を記載し、法人のホームページ、リーフレット、チラシ、児童館の利用案内への記載や、イベントでの配布などの方法で公表しています。利用者にも法人が目指す「基本目標」「重点目標」について理解が深まるようにしています。		
② 業務権限や責任所在に関する規程を定めています。また、全職員対象の研修を開催し、行動指針に基づき児童館の現状の課題や方向性、法人の理念を伝え理解を深める機会としています。児童館では「重点取組」を基本として事業計画を作成して推進を図っています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制の導入により、運営主体の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換が円滑に行われるようになっていきます。また、グループでまとめられた意見を法人が吸い上げることも役立っています。		

## Ⅱ. 経営における社会的責任

### 1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している	○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる	○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている	○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となっている	○
2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○

### 2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある	
1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）	○
2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている	○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）	○
3. 利用者や地域住民を対象としてボランティア育成をおこなっている	○
3 地域の関係機関との連携を図っている	
1. 地域の関係機関のネットワーク（連絡会など）に参画している	○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○
3. 小学校等利用者が関係する機関との連携を図っている	○

#### 【講評】

信条や職場倫理マニュアルを示し、職員の法・倫理の遵守を求めています

- ① 職員の心得やサービス姿勢を「信条」に明示しています。「職場倫理マニュアル」の策定、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、法人所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。
- ② 会計監査人の設置、管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進と仕組みの整備を図っています。例えばハラスメント対応については、職員が直接法人本部に申し出ることが可能な仕組みとしています。
- ③ 京都市地域子育て支援ステーション事業の「基幹ステーション」として、子育てに関わる関係機関・団体のネットワークの基点となっています。各児童館では、「ステーションネットワーク」の広報物の発行や独自の取り組みが行われています。
- ④ 各館におけるボランティアの積極的な受け入れも進めています。その際の「ボランティアの手引き」もひな形を示しています。倫理面、個人情報保護等については、準職員やボランティアにも職員同様に適用することを伝えています。

### Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

#### 1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○

#### 【講評】

利用者の意見・要望を受けとめ、利用者サービスの向上に努めています

- ① 「苦情解決のための実務マニュアル」「苦情解決規則」を整備しています。法人に第三者委員会を置くとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意向を酌むことに努めています。苦情解決制度に関しては、管内に掲示されています。職員対応等への苦情に対しては施設と法人で速やかに共有対応を図っています。
- ② 毎年、「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。アンケートは法人本部で集約し、質問内容は定期的に刷新したり、表現の変更を行ったりしています。また、アンケート結果を児童館に掲示・掲載することで利用者や地域住民へ公表し、透明性の確保とサービス内容の向上を図っています。
- ③ 学童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して、個別的な要望や意向を把握しています。児童館と家庭の共通認識が図られるように配慮しています。
- ④ 他団体が委託を受けている「中三学習会」や地域の実行委員会が開設している「子ども食堂」に施設提供や職員派遣を行い、地域への公益的役割を果たすことができています。

#### IV. 計画の策定と着実な実行

<b>1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる</b>		
1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/>	
2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 短期の活動についても、計画的（担当者・スケジュールの設定など）に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/>	
2. 計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	<input type="radio"/>	
3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/>	
<b>2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる</b>		
1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	<input type="radio"/>	
2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/>	
3. 利用者の負傷等に対応する傷害保険に加入している	<input type="radio"/>	
4. 賠償すべき事故に対応する損害賠償保険に加入している	<input type="radio"/>	
<b>【講評】</b> 法人の理念に基づいて事業計画を策定し、計画的な運営を行っています  ① 児童館活動の基本的な方向性として、「社協行動指針 2015」を基準にして事業計画を策定しています。地域福祉やコミュニティづくりも意識した児童館運営を行うよう心がけています。年度末には児童館事業、学童クラブ事業別に年間活動報告を作成して課題を明確にするとともに、次年度の計画策定時に生かしています。 ② 法人独自に「事故防止マニュアル」「緊急時の対応に関するマニュアル」「感染症予防対策のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備しています。また、定期的な避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成しています。 ③ 活動中の利用者の負傷や、児童館が賠償すべき事案が起きた際等の不測の事態への備えとして、各児童館とも傷害保険・損害賠償保険に加入しています。		



## V. 職員と組織の能力向上

<b>1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる</b>		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 採用に対する明確な基準を設けている	<input type="radio"/>	
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/>	
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/>	
<b>2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる</b>		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/>	
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/>	
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
<b>【講評】</b> 人事考課制度や職員ヒアリングを導入して、人材育成と組織力の向上を図っています		
① 採用に関する明確な基準を持っており、透明性確保のために公募による採用試験を行い、適材適所の人員配置に努めています。		
② 各館で定期的に館長による職員面談が行われ、一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の資料としています。		
③ 法人独自の人事考課制度により、望ましい職員像や行動基準を明らかにしています。法人では考課者の資質が重要であるとの考えから、館長も身を引き締めて実施しています。また、この人事考課は主任、副館長、児童館長への昇格に考慮されます。		
④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。		
⑤ 職員一人ひとりの研修受講状況を管理し資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。		

## VI. サービス提供のプロセス

<b>1 サービス情報の提供</b>		
1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している		
1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/>
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/>
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		<input type="radio"/>
4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている		
5. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている		<input type="radio"/>
<b>【講評】</b> じどうかんニュースは700部を発行し、情報が広く行きわたることを意識しています  ① じどうかんニュースを、小学校全クラス、自治会、地域の団体、民生児童委員等に配布し、広く児童館の情報が行きわたるように努めています。 ② 地域子育て支援ステーション事業の広報誌「ほのぼのランド」を年4回発行しています。こちらは児童館の情報に加え、該当学区の幼稚園や保育所、放課後等デイサービスの情報も掲載されており、広く子育て支援情報を発信しています。 ③ ホームページは毎月情報更新を行い、最新のじどうかんニュースが閲覧できるようにしてあります。		
<b>2 サービスの実施</b>		
1 遊びの環境整備を行っている		
1. 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている		<input type="radio"/>
2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある		<input type="radio"/>
3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している		<input type="radio"/>
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている		<input type="radio"/>
<b>【講評】</b> 子ども同士の交流が進むように、限られたスペースの中でも工夫して活動しています  ① 学童クラブの利用児童が増加してきている中、大型遊具の使える曜日を限定してルールを掲示したり、屋上スペースを利用したりするなど限られたスペースを有効に使って、苦心して子どもの遊び環境を整備しています。 ② 遊具は気軽に手に取って自由に使えるように、所定の棚に分類して収納しています。ぬり絵や折り紙は日の枚数を限定しつつ、広告紙などは自由に使えるように用意をしています。遊具の収納については限られた収納スペースではありますが、取り出しやすさのもう一工夫ができそうです。 ③ 幅広い年齢が遊ぶことかでき交流が望める卓球、マンカラなどを用意しています。また、自由来館児童も参加ができるクラブ活動を多数（料理、卓球、将棋、きりえなど）実施して、学童クラブ登録児童と自由来館児童との交流が進むように支援しています。		
2 乳幼児と保護者への対応を行っている		
1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している		<input type="radio"/>
2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている		<input type="radio"/>
3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している		<input type="radio"/>

	<p><b>【講評】</b> 乳幼児とその保護者の交流の場を設けて、子育て家庭の支援に努めています</p> <p>① 乳児サークルの「たまごランド」「ぴよランド」、幼児サークルの「ひよこクラブ」をそれぞれ週1回開催しています。年齢別に分けることで、発達段階が近い子どもの交流が生まれ、同時に母親の交流が促進されるようにしています。</p> <p>② 上記サークルのほかに民生児童委員が主体となって実施する「おやこひろば」や木製遊具で遊ぶことができる場を提供する「おもちゃライブラリー」なども人気があります。</p> <p>③ その他、民生児童委員や他施設の職員と連携した公園遊びや、乳幼児向け夏祭りなどの単発事業、講師を招いての講座の実施など様々なプログラムを実施して保護者から喜ばれています。</p>								
	<p>3 小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table border="1" data-bbox="225 607 1497 882"> <tr> <td>1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table> <p><b>【講評】</b> クラブ活動や行事へ向けての練習などで、集団や個人の成長を図るようにしています</p> <p>① 自由来館児童が参加できるクラブ活動を取り入れて、学童クラブ登録児童との交流を進めています。職員は子どもの来館時の様子を見ながら必要に応じて声掛けしたりして対応しています。</p> <p>② 学童クラブ登録児童が中心となりますが、集団遊びを行う「じどうかんであそぼう！」などを取り入れてみんなで遊ぶ楽しさを味わったり、ドッジボール大会や子ども祭りでのステージ発表に向けての練習をとおして、一人ひとりの取り組みの大切さや集団で合わせることの楽しさに触れたりしています。</p> <p>③ 実行委員会形式を取り入れた行事を実施したり、日頃のクラブ活動の練習の成果を発揮する大会を用意したりするなど、日常活動とイベントとがリンクされています。</p>	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○	2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○
1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○								
2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○								
3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○								
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○								
	<p>4 中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1" data-bbox="225 1305 1497 1384"> <tr> <td>1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある</td><td>—</td></tr> <tr> <td>2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している</td><td>—</td></tr> </table> <p><b>【講評】</b> 中学生・高校生世代の対応については今後の課題となります</p> <p>① 西京区の中高生学習支援事業に協力しています。その中で大学生ボランティアとの関りができ、中高生世代の子どもに児童館について知ってもらう機会にもなっています。</p> <p>② パンフレット、お便りなどの広報物に中・高校生世代の利用に関わる表記が見当たらず、館として中高生世代の対応についての方針がないように見受けられます。中高生世代になっても、気軽にふらりと立ち寄れる場所があるというのは子どもたちにとって大変意味があります。まずは、小学校高学年利用児童が「小学校を卒業してもふらっと来ていい場所」という居場所としての認知を持てるように、職員間での話し合い、雰囲気作りから始めるなどの着手が期待されます。</p>	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	—	2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	—				
1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	—								
2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	—								
	<p>5 子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table border="1" data-bbox="225 1812 1497 1888"> <tr> <td>1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある</td><td>○</td></tr> </table>	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○	2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○				
1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○								
2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○								



	<p><b>【講評】</b></p> <p>① 学童クラブの登録児童を中心に、ハロウィン、秋祭り、クリスマスなどの行事で実行委員会形式による運営をしています。それぞれ4回集まって会議をして、企画や出し物の内容などを子どもたち自身で決めています。</p> <p>② 学童クラブでは3年生会議を実施しています。お誕生日会の際の進行係、お店屋さんごっことなどの集団遊びの内容、お別れ遠足の場所、不定期ではありますが、おやつの内容などを話し合いで決めることもあります。</p>						
6	<p>配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている</td><td>○</td></tr> </table> <p><b>【講評】</b></p> <p>配慮を要する児童・家庭に対して関係機関との情報共有・支援の体制が整えられています</p> <p>① 登録家庭数が比較的少なく、約半分の児童が帰りの際に保護者のお迎えとなっているため、日頃から保護者と顔を合わせて話をする機会が多くあります。その保護者とのやり取りの中で特記すべき事項があった場合は、学童日誌に記録して職員間の情報共有を図っています。</p> <p>② 障害のある児童の受け入れに際しては、市の介助者派遣制度を活用して適切な支援を行える体制を整えています。また、市が行う研修会も定期的に受講しています。</p> <p>③ 虐待事案については、区役所のはぐくみ室とすぐに連携・情報共有ができる体制になっています。また、桂学区の子育て支援連絡会には18の団体が所属していますが、その中において地域の子どもの課題について話をしたり、連携が取れたりする体制も持っています。</p>	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○	2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	○	3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○						
2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	○						
3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○						
7	<p>地域の児童の育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td><td>○</td></tr> </table> <p><b>【講評】</b></p> <p>子育て支援連絡会や地元消防署、警察署と連携をして、子どもが安心して生活できる地域づくりに努めています</p> <p>① 桂学区の子育て支援連絡会により、日常から地域の子どものことについて情報共有や連携ができる体制が整っています。</p> <p>② 地域の警察署や消防署と連携した交通安全教室や避難訓練等を実施しています。実際に地域を歩く避難訓練や合同の避難訓練を実施し、地域で災害が生じた際に具体的に子どもたちが動くことができるようになるための訓練を心がけています。</p> <p>③ 児童館運営協議会を年4回実施して児童館事業の報告や地域の子どもの課題について話をする機会があります。また、様々な地域のイベントに参加・協力したり、子どもとともに参加したりするなど、地域の子どものに関わるプログラムを積極的に支援しています。</p>	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○	2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○						
2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○						
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○						

<p><b>3 サービスの開始・終了時の対応【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】</b></p>							
1	<p>サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している</td><td>○</td></tr> </table>	1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○						
2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○						
3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○						
2	<p>サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている</p>						

1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○
<b>【講評】</b> 保護者との信頼関係を築いて、児童館とそれぞれの家庭の連続的な支援を行っています <p>① 毎年入会説明会を実施して、保護者が十分に説明を受けた状態で新年度を迎えています。入会説明会の際は「学童クラブ入会のご案内」を配布しており、後からでも確認が可能なように詳細な資料になっています。また、長期休み前等の節目にも保護者懇談会を開催し、学童クラブでの生活について話をしたり、不安な点について質問を受けたりする時間を設けて、保護者の不安解消や意向確認に役立てています。</p> <p>② 個別の子どもの情報は「学童クラブ児童台帳」に記入していただき、緊急連絡先、健康状態、緊急時の治療受診についての委任などを保管しています。学童クラブたより等への名前や写真の掲載の諾否、一斉メール配信のためのメールアドレス取得などについても理由を説明し、文書で同意を得ています。</p> <p>③ 保護者会が活発で、連携をして共催事業を行っています。特に父親の関りも強く、風揚げ大会、豚汁づくり、親子デイキャンプなどの事業で活躍しています。児童館ではその活動を支援しています。</p>	

#### 4 特に配慮を要する児童・家庭の個別状況に応じた計画策定・記録

1 定められた手順に従って情報収集、分析および課題設定を行い、子ども・家庭の課題を理解した個別の支援を計画している

1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している	○
2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている	○
3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている	○
4. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○
5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている	○
6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○

2 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○
2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○

3 配慮を要する子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○

#### 【講評】

子どもや家庭の状況に応じた個別の支援方針を決め、職員間での情報共有がされています

- ① 子どもとその家庭の意向や要望は個人懇談を行って聞き取り、受け止めることになっています。その内容はノートに記録して共有を図っています。保護者から相談があればいつでも対応し、児童館として必要があると判断した際は児童館側から連絡を取り、改めた時間の中で話をするようにしています。
- ② 課題のある子どもや家庭については、京都市の就学支援シートや「児童の状況報告書」などの既定の書式に基づいて子どもに関わる情報を把握しています。この資料と年度当初の個人懇談をもとに個別支援について検討がされています。館としては個別の懇談が年1回に留まっていることを課題と感じていますが、現在の勤務体制で複数回開催することが困難なところもあります。
- ③ 具体的に子どもに対応した記録は学童クラブ日誌には記録されていますが、子ども別の記録ファイルなどの体制は整っていません。今後外部の機関や施設、関係者と連携したり、児童館での対応を職員間で共有したり振り返ったりすることに活用するためにも、個人別のファイルで管理されることが望まれます。

## 5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

### 1 子どものプライバシー保護を徹底している

- |  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている | <input type="radio"/> |
| 2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている                              | <input type="radio"/> |

### 2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している   | <input type="radio"/> |
| 2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている  | <input type="radio"/> |
| 3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している | <input type="radio"/> |
| 4. 子どもの権利擁護のための規定が定められ、公表されている  | <input type="radio"/> |

#### 【講評】

子どもの権利擁護を最優先に考えて事業をおこなっています

- ① 子どもの名前や写真の掲載については、学童クラブの入会説明会で保護者に説明し、文書で同意を得た場合のみ使用しています。具体的に利用が生じの際は、その都度保護者に連絡を取り、あらためて同意を得るようにしています。また、児童台帳ではケガ等の際に治療行為を行うことについて委任をもらっています。
- ② 子どもへの個別の対応が必要な場合は、事務室や図書室など、ほかの子どもの目につかない場所を選んで話をするなど、子どもの羞恥心や自尊心に配慮した対応がされています。
- ③ 法人本部が作成した「職場倫理マニュアル」を活用し、人権研修等の職場内研修を実施して子どもの権利擁護について確認しています。また、昼ミーティングで職員間での共有を図り、日頃から確認し合うなど単なる内容の読み合わせではなく、館長の経験も踏まえた事例検討等を行うことにより、子どもの最善の利益を保障する専門職としての役割を確認しあう機会としています。

## 6 事業所業務の標準化

### 1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている | <input type="radio"/> |
| 2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している          | <input type="radio"/> |

### 2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている                       | <input type="radio"/> |
| 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | <input type="radio"/> |
| 3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる                | <input type="radio"/> |

### 3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

- |  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている | <input type="radio"/> |
| 2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している                  | <input type="radio"/> |
| 3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している             | <input type="radio"/> |
| 4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている          | <input type="radio"/> |

<p>【講評】</p> <p>アンケートの実施やO J Tをとおして業務の一定水準を図るべく、努力しています</p> <p>① 毎年、利用者共通アンケート（小学生、保護者）を実施し、それらの結果から利用者のニーズや意向を把握しています。また次年度の事業計画を策定する際は、それらの結果と合わせて各事業の総括を行い、「京都市児童館活動指針」に基づきながら、検討を進めています。</p> <p>② 職員が積極的に法人や学童連盟の研修会に参加できるよう配慮しています。また研修内容を伝達研修等で共有することにより、職員全体の資質向上を図っています。</p> <p>③ 職員間で毎日、昼ミーティングを行い、情報の共有と対応の統一化が図られています。また、事業を行う際に経験年数のバランスを考慮して担当を組み、O J Tが行えるような体制を取っています。</p>
--

## VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる		
1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		
1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		○
2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している		○
2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		
1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		○
2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている		○
<p>【講評】</p> <p>アクセス権のあるパソコンの活用で情報の保護・共有化に取り組んでいます</p> <p>①個人情報や必要な情報についてはあえて印刷やファイル化をせず、アクセス権のあるパソコン上で管理し、個人情報の保護と共有に努めています。</p> <p>②集約した様々な情報を支援シートや子どもの特性ごとに一本化・データ化し、パソコン上で整理することが今後の課題であると考えています。</p> <p>③個人情報の利用目的については、学童クラブにおいては入会説明会で行われていますが、一般来館者にも理解してもらえるよう、館内掲示を行うことも必要であると考えます。</p>		

## 総評

### ■特に良い点

ポイント1	子どもの意見を生かす事業に取り組む努力をしています
	<p>学童クラブの登録児童が中心となりますが、子どもが意見を出し、それを吸い上げて事業につなぐ取り組みをおこなう努力をしています。お誕生日会の際の集団遊びの内容や、お店屋さんごっこの売り物決めなどがそれにあたります。また、学年会議で行事の企画や進行係を立候補で決めて実施、3年生を中心におやつを話し合いで決めることもあります。子どもたちが取り組める範囲内で、無理のないペースで進めるようにしています。</p>
ポイント2	学童クラブは保護者の参加も含め、相互の協力のもと丁寧に行われています
	<p>当児童館は登録児童数が少ない分、一人ひとりの保護者に丁寧に向きあい、子どものことについて連携することができます。入会説明会、保護者懇談会、日常や行事で会った際に話をし、相互理解や協力を求めています。</p> <p>また、保護者会が活発で父親の関りが多く、手づくり風揚げ大会やデイキャンプなどの際活躍しています。</p>
ポイント3	法人本部は各種マニュアルの整備や事務作業のシステム化を進めています
	<p>法人本部では、マニュアルの整備を積極的に進めることにより、サービス提供の標準化と各児童館で何かあった際に迷うことなく対応が図られる仕組みを構築しています。これにより、法人運営館は原則としてどのような事項についても同じ対応ができるようになり、コンプライアンスや個人情報保護の徹底にも役立てています。</p> <p>各館の設置地域の状況により一律のマニュアルでは対応できない場合には、各館の判断で対応ができる柔軟性もあります。</p> <p>また、各館職員の事務効率化を図るために日誌などの記録の電子化に着手しており、来館児童に十分に対応できる時間をつくるとともに、無駄な事務作業を極力削減し、働きやすい環境とすることを目指しています。</p>

### ■改善が望まれる点

ポイント1	配慮を要する児童に関わる個別の支援方針の記述や対応の記録等の充実が求められます
-------	---



	<p>要配慮児童に対して個人懇談で丁寧に話を聞いてニーズを受け止めたり、就学支援シートのコピーを保護者からいただいて子どもの特性を理解したりする努力をしています。個人懇談での話は共通のノートに記録し後から確認できるようにし、日常の記録は日誌に書き留めています。</p> <p>今後は、特に要配慮児童については個別のファイルを設け、保護者と確認し合った内容や決定した子どもの支援方針、実際の対応とその振り返り等について、一覧ができるように整えることが望まれます。職員間での情報共有や小学校、他機関・施設との話し合い等の際に生かせるものと考えます。</p>
ポイント2	引き続き中学生・高校生世代の利用促進には努力されることを期待します
	<p>児童福祉施設の中でも児童館が特長としているのが、地域のあらゆる世代を対象としてその利用や支援をすることができるということです。そのような意味では、乳幼児とその家庭の支援、小学生の支援に加え、中学生・高校生世代の居場所となり、利用に繋げる取組は引き続き挑戦していただきたいところです。</p> <p>幸いにも赤ちゃんとのふれあい事業でゲストティーチャーとして学校に出向いたり、吹奏楽部に児童館に来てもらったりする中学校との関りがあります。また、学童クラブの利用児童が卒所後もいつでも利用できるように、居やすい環境づくりや職員との信頼関係をつくり、気軽に立ち寄れるようにするなど、中高生用の事業の企画などに関わらず呼び込むための工夫も考えられます。館としても課題としていらっしゃいますので、ぜひ、少しずつでも前に進むための取り組みを始めていただくことを期待します。</p>